

#### 4. 乳がん検診有所見者状況 (年代別) ～2011年度結果～

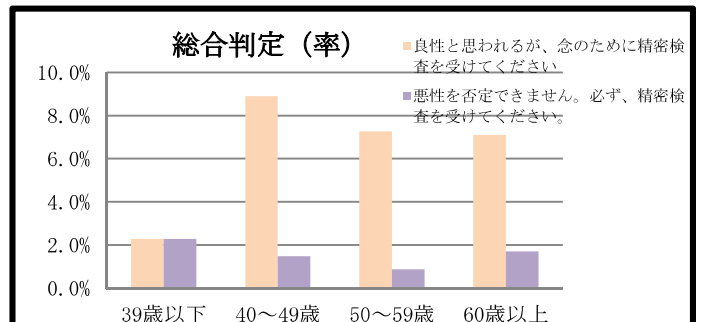
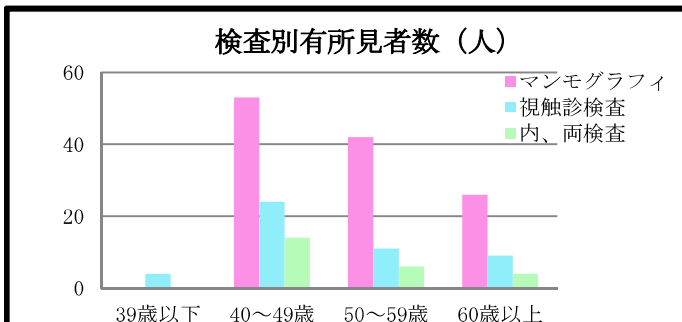
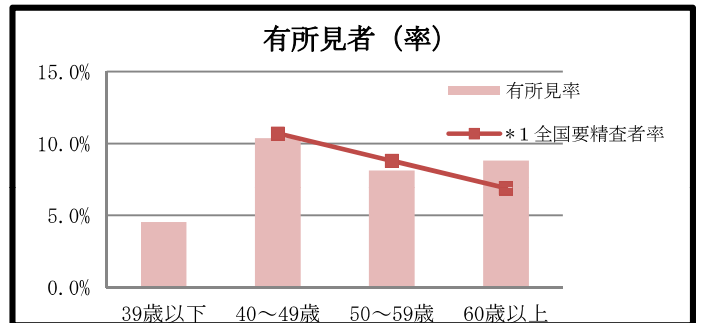
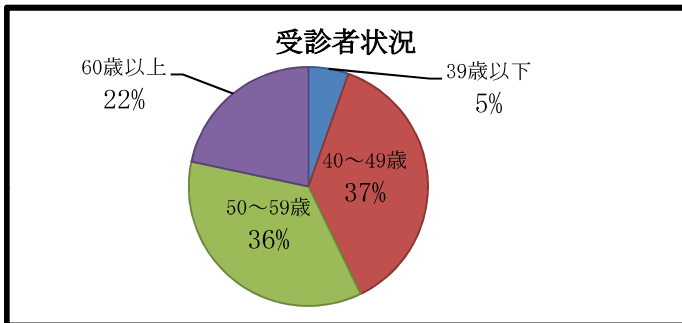
以下のデータは、当法人におけるマンモグラフィ検査と視触診検査の実施状況である。

2011年度の乳がん検診の受診者数は、合計1,625人であった。

年齢	受診者数 (人)	所見判定 (なし/あり)			検査別有所見者数 (人)			総合判定			
		所見なし (人)	所見あり (人)	有所見率	マンモグラフィ	視触診検査	内、両検査	良性と思われるが、念のために精密検査を受けてください		悪性を否定できません。必ず、精密検査を受けてください。	
					(人)	(人)	(人)	(人)	(/受診者数)	(人)	(/受診者数)
39歳以下	88	84	4	4.5%		4		2	2.3%	2	2.3%
40～49歳	607	544	63	10.4%	53	24	14	54	8.9%	9	1.5%
50～59歳	578	531	47	8.1%	42	11	6	42	7.3%	5	0.9%
60歳以上	352	321	31	8.8%	26	9	4	25	7.1%	6	1.7%
合計	1,625	1,480	145	8.9%	121	48	24	123	7.6%	22	1.4%

参考資料\*1：「2011年の地域保健・健康増進事業報告」2010年度全国集計における乳がん検診（視触診及びマンモグラフィ）要精査率

総数	40～49歳	50～59歳	60歳以上
要精査者	84,859	58,644	74,362
全国人数	790,450	667,095	108,4448
要精査率	10.7%	8.8%	6.9%



- ①2011年度の当法人の乳がん検診有所見者状況については、有所見率が、39歳以下の年齢層で4.5%、40～49歳の年齢層で10.4%、50～59歳の年齢層で8.1%、60歳以上の年齢層で8.8%という結果であった。
- ②「2011年の地域保健・健康増進事業報告」から集計した2010年度の全国集計における乳がん検診（視触診及びマンモグラフィ）の要精査率は、40～49歳の年齢層で10.7%、50～59歳の年齢層で8.8%、60歳以上の年齢層で6.9%という結果であった。
- ③乳癌の具体的な危険因子としては、以下の点などが指摘されている（東京都HPより引用）。
  - (1) 初潮が早い、閉経が遅い
  - (2) 初産年齢が高い又は出産経験がない・授乳経験がない
  - (3) 閉経後の肥満
  - (4) 家族（特に母・姉妹・娘）に乳がんになった人がいる
  - (5) 本人が以前に乳がんになったことがある
- ④当法人のデータと全国のデータを比較すると、当法人のデータでは60歳以上の年齢層において、有所見率がやや高い状況が窺える。前項までの当法人における「健診データの集計結果」からは、出雲圏域における女性の特徴として、「経年的に、肥満の有所見率が全年齢層で上昇しており、2009年度以降は全国平均を上回ってきている」点が示されている。したがって、有所見率とがん発見率は意味合いが異なるため、限られたデータから断定的なことは言いにくいですが、当法人の60歳以上の年齢層における乳がん検診での有所見率が全国のデータよりやや高いという状況については、上記の乳癌の具体的な危険因子の中に「閉経後の肥満」という因子が含まれている点を踏まえつつ、今後の動向については注目をしていく必要があるのではないかと考えられる。